

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		諏訪竜一	所 属	亜熱帯農林環境 植物機能学	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズに見合う知識を有することのできる講義を行う ・講義分野を学生のみならず、一般公開できるよう取り組む。 ・農作物を自ら作り、食し、食事に対する理解を深める教育を行う。 ・理解しやすくなおかつ深みのある講義を行う。 		0.30	作物学、エネルギー作物の一般公開講義への設定を行い、作物学3名エネルギー作物学4名の社会人の方に対して講義を行った。実験講義においては各種作物の栽培を行い、農業実践も合わせた教育を行った。	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・大宜味村圃場で継続中の酸性土壌耕作放棄地の精油および木材採取のための産業植林に向けた研究を継続して推進する。 ・他研究室と共同研究を行い、本大学の研究成果の向上、相互のレベルアップに努める ・沖縄県の地域に貢献する研究課題を遂行する(在来ダイズの研究を中心として外部資金獲得の準備も進める) 		0.40	大宜味村圃場の研究試験がある程度の成果を達成し、本年度の作物学会で公表することとなった。また、本知見をもととして、農家からの栽培を行いたいとの依頼があり、この普及準備を進めている。本研究は、森林分野研究室との連携による知識協力を得て達成に至った。また、在来大豆の研究では、沖縄総合事務局と連携し、研究推進のための予算の獲得に至った。またこれを活用した成果は作物学会で公表することとなった。	
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・国際貢献としての具体的取組(JICA研修等) ・沖縄農業研究会等の地域の農業を担う研究会の運営を行う 		0.10	JICA国際プログラムにおいて、国内施設研修プログラムのスケジュール立案等を行った。沖縄農業研究会の運営協力を行った。また、総合事務局、地域の農業関連および専門学校などでの講演依頼をうけこれを行った。	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長等の管理職の加重的負担を軽減するため、できることは協力し学科の動きを軽敏にし、研究活動の活発化に努める ・分担している各種委員会の活動を行う。 		0.10	可能なことについて協力を行った。各種委員会の参加および役割を担当した。	
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次指導教員として学業およびコース分けに関連する役割を分担する。これらの事柄に対する質問などを適宜対応する。 		0.10	本年度のコース分けなど、調整を行い、適宜質問等に対する対応を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		田場 聡	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	植物病理学実験(選択必修)では実験方法の把握だけでなく、デモンストレーションを行うとともにパワーポイントなどを用いて項目別に解説し理解を深めさせる。植物病理学概論、土壌微生物学および植物線虫学では最新のデータについての写真や動画で紹介し、当該研究分野に対する興味と理解を高める。植物病理学特論では、亜熱帯性病害について各病原体の最新の診断および防除法について紹介し、現場に即した研究を題材に議論し、実学的な研究について考察する。熱帯植物病理学特論では、沖縄で問題となる課題についてゼミ形式で授業を行い、当該分野の専門的知識を深めさせる。植物病理学研究室の学生に対しては論理的思考能力およびプレゼン能力の開発を目的としたゼミナールを週1回(2人)行う。		0.30	植物病理学概論および植物病理学実験ではパワーポイントにより写真や図を駆使して解説した結果、学生の理解が深まった。植物線虫学および土壌微生物学では動画およびDVD等を用いたことで当該分野に対する学生の興味を向上できた。また理解度を高めるためレポートを課した結果、成績が向上した。英語文献講読Ⅰ・Ⅱではニュース英語(科学)や英語論文を教材に用いたため学習意欲と英語の学力を向上できた。また関連内容に関する情報収集により自然科学関連の情報量が向上した。研究室ゼミでは論文を講読してパワーポイントで発表後、ディスカッションを行い、学部3年次から修士課程の学生を含む計7名の論理的な考察力と自己アピールの向上を実現できた。植物病理学特論では、果樹病害と線虫病について実学的な内容(検定法や防除法)の講義により応用研究の重要性が理解できた。熱帯植物病理学特論では問題意識を持って課題に取り組む自発性と解決力の向上に寄与できた。
研究	0.35	論文(和文または英文)を投稿し受理を目指す。日本植物病理学会、日本線虫学会、沖縄農業研究会などにおいて発表を行う。これまで競争的資金などで採択された研究課題や特許を進展させ、外部資金を獲得し、関連企業との共同研究をさらに推進することで実社会に応用できる技術の研究開発に努める。国内特許1件の受理を目指す。今後、これらの特許をもとに研究資金獲得を目指す。		0.35	Nematological research(英文:日本線虫学会)に1報掲載された。また九州病害虫研究会誌に1報掲載された。現在はJournal of general plant pathology(英文:日本植物病理学会)に投稿準備中である。沖縄農業研究会においてポスター発表(1件)を行い、日本植物病理学会では1件講演発表を行った。松枯れ病に関する国内特許(マツノマダラカミキリの防除剤および防除方法)が登録された。現在、県外企業1社と共同研究を行っている他、1社と秘密保持契約を結び共同研究を推進している。また県外企業1社と線虫製剤を開発し、試験販売を継続中である。外部資金については「戦略的イノベーション創出プログラム(次世代農林水産業創出技術)」(2090万円/5年)を獲得し、初年度の優れた研究トップ5に選ばれた。
社会 貢献	0.15	セミナーや研究会に積極的に参加・発言し、県内で行われる病害虫関連の研究や産官学連携推進に尽力する。国内で開催される講演会などで講演を行う。		0.15	ピタヤ(ドラゴンフルーツ)に発生した新規病害である乾腐病(異名:炭腐病)菌の詳細な同定を行い、国内の植物防疫に関する情報提供を行った。戦略的イノベーション創出プログラムキックオフ会議では、病害虫防除に有望なアウユキセンダングサ関連の研究内容について紹介した。来年度5月に開催される日本菌学会(沖縄大会)の実行委員に任命された。
管理 運営	0.10	地域貢献支援委員会、環境・交通・施設等委員会および教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会などの学内委員会に積極的に参加する。		0.10	出張などにより完全な出席はできていないが、90%以上の出席率で貢献を行った。特に年度途中で委員となった植物資源検討委員会委員(産官学連携推進機構)および第3期中期目標・中期計画プロジェクトチーム組織見直し具体化ファースト委員では積極的に発言を行い、大学運営および沖縄県に寄与した。
進路 指導	0.10	学生の積極的な学会参加を促し、修士および博士課程への進学率を高める。また就職の場合は、生物系および農学系関連企業の紹介などに積極的に取り組む。		0.10	修士1名が沖縄農業研究会においてパネル発表を行った。積極的に修士課程への進学を促した結果、4年次1名が修士課程に合格した。就職関連では4年次2名が国家二種およびJA沖縄に、修士1名が沖縄県(上級:農学)に採用が決定した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	井上 章二		所 属	農学部	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部においては前学期:森林水文学、森林環境学、外国文献講読I、キャリアディベロップメントおよび卒業論文Iなど、後学期:森林土木学、森林工学演習実習、流域・森林保全学、森林科学実習、森林測量学、森林測量学実習、卒業論文IIなど、研究科においては森林環境工学特論、亜熱帯農学特別演習、プレゼンテーション演習等の授業をシラバスに則って行う。それぞれの科目において、前年度の学生の意見や自らの反省を活かした授業の改善を心掛ける。大学院国際農学プログラムにおいてはスムーズかつ効果的に実施できるようコーディネートを行う。また、連大関連では留学生1名、社会人学生1名(いずれも3年次)の指導教員として、他の留学生2名の副指導教員として学位取得に向けて指導を行う。研究室の院生、学生に対しては週1~2回のゼミを確保し、修士学生3名、卒論学生3名を指導する。	0.35	学部、研究科すべての授業に対してシラバス通りの実施に努め、昨年度の授業評価の意見を反映させるなど全力投入したが、管理運営にかなりの時間を要し、後学期は授業数が多かったこともあり、一部行き届かなかった面もあると思われる。しかし、休講も最低限であり、補講の実施等も含め及第点であると自己採点できる。連大学生2名の指導教員、2名の副指導教員として論文を提出させ、審査した。研究室ゼミも週最低1回は確保し、研究室在籍の3名の4年次学生の卒論を指導した。	
研究	0.15	東日本大震災を受けて海岸林の防災に関する研究を引き続き行い、その研究成果を国内外のレフリー付き学術誌に投稿し採択を目指す。日本海岸林学会、日本雨水資源化システム学会での研究発表を目指す。	0.15	日本雨水資源化システム学会で院生と連名で2編の口頭発表を行った。投稿していた論文が日本雨水資源化システム学会誌に掲載された。しかしながら、年間を通じての業務ウェイトが教育と管理運営において当初予定より膨張し、結果として研究に割けるウェイトが圧迫された。	
社会貢献	0.10	日本雨水資源化システム学会理事、日本海岸林学会評議員の責務を引き続き果たす。内閣府沖縄総合事務局における入札監視委員会委員として適切な入札が行われるよう尽力するとともに、沖縄県森林緑地課および森林資源研究センター等との連携にも力を入れ、社会貢献に務める。	0.10	雨水資源化システム学会の理事として、学会運営の責任を果たした。日本海岸林学会の役員としても責務を果たした。また、沖縄総合事務局の入札監視委員会委員長としての職責を果たした。沖縄県との連携推進については、具体化の面で若干積み残しがある。	
管理運営	0.35	全学的には大学教育センター長としてセンターの運営に努めるとともに、企画経営戦略会議、教育研究評議会、全学人事委員会、全学教育委員会、大学院委員会、入学試験管理委員会等の委員としての責務を果たす。農学部では、副学部長として学部長を補佐し、学部の円滑な運営に努力する。その他、代議会、将来計画委員会、自己評価委員会、人事委員会、教育委員会、中期目標・中期計画推進会議の委員としての責務を果たし、大学、学部の管理運営に努める。	0.35	大学教育センター長として、センターの運営、URDCCの推進等に取り組んだ。全学委員会、および各種学部委員会に出席または委員会を主催し、できる限りの時間を割いて大学、学部、学科の管理運営に努めた。また、第3期の中期目標・中期計画策定WG委員として尽力した。	
進路指導	0.10	3年次学生にキャリア実習への積極的参加を呼びかける。3年次、4年次および大学院の学生に対して公務員試験や民間企業の求人等の情報(これまでに就職先開拓のために訪問した企業の情報を含む)を提供する。研究室の専攻生はもとより、その他の研究室、学科を問わず相談に訪れた学生に対し、より具体的な就職や進学に対するアドバイスを行う。	0.05	4年次学生には企業に推薦書を書き、2学生が内定を得た。キャリア実習に関しては学生の希望先と交渉し、3年次2学生がキャリア実習を履修した。また、求人情報などは速やかに提供し、大学院への進学に関してもアドバイスを行ったが、業務ウェイトは下がった。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本 一穂		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	質疑応答や議論の機会を多く設けた対話型授業により、情報リテラシーや問題解決力などの能力の向上を目指す。授業内容に対する学生の要望等も積極的に聴取し、授業内容の改善に役立てる。卒業研究では計画立案から研究遂行、論文作成までをきめ細やかに指導しつつ、学生に主体的に取り組ませることで、学生の問題解決力の向上を目指す。			0.30	授業では配布資料の内容を再検討し、重要項目は学生に書き取らせる形式にすることで、より深く知識を習得できるようにした。また、毎回学生から授業内容に関する意見や質問を聴取し、授業の改善に役立てた。実験では、学生が主体性を発揮できるような課題を設定したが、学生間での合意形成が進まなかったため、今後内容を改善していきたい。卒業・修士研究については、学生とのディスカッションをベースに、学生の主体性を尊重しながら計画立案から研究遂行、論文作成まで、きめ細やかな指導を行った。	
研究	0.35	与那フィールドにおける亜熱帯林の生態系研究拠点の構築に向けた取り組みを引き続き進めるとともに、マレーシアの熱帯雨林の生態系機能に関する調査も継続して行う。一方、これまで得られたデータの解析も進め、国際学術誌に1報以上の投稿を目指す。科学研究費補助金や民間の研究助成金にも積極的に応募する。			0.25	与那フィールド内において、森林の水・熱交換量の連続観測を継続するとともに、新たに土壌呼吸や樹冠遮断蒸発の観測システムを設置し、研究拠点化を進めた。得られた成果は3月の日本森林学会で発表し、今後投稿論文にする予定である。海外調査も引き続き実施し、マレーシアの熱帯雨林の生態系機能に関する調査を行った。外部研究費としては競争的研究助成1件が採択されたほか、受託研究契約を1件締結した。なお、本年度は共著論文1本が国際学術誌に受理されたほか、年度内にファーストオーサーの総説を投稿する予定である。	
社会貢献	0.10	沖縄県と同森林資源研究センターと連絡を密にとり、沖縄県の林業および環境政策の推進における諸課題について理解を深め、将来的にそれらの問題点に対して学術的立場からの問題点の抽出や解決策が立案できるよう、問題意識を持って研究に取り組む。			0.15	沖縄県森林資源研究センターと密に情報交換を行うとともに、亜熱帯森林・林業研究会に参加し、沖縄県の森林をめぐる諸課題について理解を深めた。また、南西諸島の持続可能な森林管理手法に関する沖縄県の委託研究事業について、森林総合研究所、鹿児島県等との共同研究事業体としてその推進に携わった。このほか、熱帯・亜熱帯の森林の炭素循環に関する公開シンポジウムおよび国際ワークショップを主催し、著名な研究者を招聘し、市民に先端的な研究成果を広く発信した。	
管理運営	0.15	教授会や学科会議に積極的に参加し、議論に加わるとともに、各種委員の仕事にも積極的に取り組むことで、農学部や亜熱帯農林環境科学科の管理運営に貢献する。また、全学学生教育プログラム委員として、同プログラムの効果的で円滑な実施に向けた取り組みを推進し、全学規模での教育改善にも貢献する。			0.20	出張・研修時を除いて教授会と学科会議に積極的に参加するとともに、農学部教育委員や自己評価委員、全学学生教育プログラム委員等を務め、大学・学部・学科の運営に貢献した。特に全学学生教育プログラム委員会ではアセスメントポリシー作成のためのワーキンググループのメンバーも務め、同プログラムの円滑な実施に向けた取り組みを推進した。	
進路指導	0.10	進路に関する話し合いを多く持ち、それを基に学生の希望する進路について情報収集を行う。また、様々な大学研究者、公務員、会社員を通して、人事情報や採用情報を得て学生に提供する。研究者を目指す学生に対しては、卒業論文指導や大学院教育を通じて、早い段階から投稿論文を投稿できる体制を整えるなど、将来研究者として職が得られるよう、質の高い指導を行っていく。			0.10	学生との間で進路に関する話し合いの場を多く持ち、学生の希望進路に沿った企業等を紹介した。また、次年度から研究室配属を希望する学部3年生に対しても、希望する進路を聴取し、就職活動と卒業研究遂行との両立などに関する相談に対応した。	
	0.00				0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		ラザフィンラベ バム	所 属	農学部	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	学部においてはリモートセンシング概論、リモートセンシング実習を担当し、流域・森林保全学、森林工学演習実習、森林測量学、森林測量学実習(分担)など、大学院においては森林環境保全学特論等の授業をシラバスに則って行う。また、研究室の学生、院生、研究生には週1~2回のゼミを実施する。		0.40	予定通り、学部においてはリモートセンシング概論、リモートセンシング実習を担当し、流域・森林保全学、森林工学演習実習、森林測量学、森林測量学実習(分担)、それに、大学院においては森林環境保全学特論等の授業をシラバスに則って行った。また、研究室の学生や院生には週1回のゼミを行った。卒業論文の準備や、リハーサルなどのゼミは適切に行った。	
研究	0.45	日本の総合地球環境学研究所との共同研究は正式的に終わりましたが、洪水リスクとレジリエンスなどの研究は個人的にフィリピン大学ロスバニオス交とは継続する。研究分担者として、「獣害と管理放棄リスク軽減に向けた時空間的シミュレーションモデルの構築」科研費プロジェクトのデータ収集や分析などをする。また、マダガスカル中東部の環境リスクと災害リスクマネジメントの研究もスタートする予定。		0.46	総合地球環境学研究所で始めた共同研究はフィリピン大学ロスバニオス交の研究者と、洪水リスクとレジリエンスなどの研究は継続した。成果として、一つの論文を出版された(Razafindrabe et al., Environmental Hazards, 14:1,16-35,2015)。研究分担者として、「獣害と管理放棄リスク軽減に向けた時空間的シミュレーションモデルの構築」科研費プロジェクトのデータ収集や分析などをした。また、スタートする予定のマダガスカル中東部の環境リスクと災害リスクマネジメントの研究も、JSPS二国間交流事業共同研究として(H28年まで)、統計数理研究所と共同で行った。	
社会貢献	0.05	環境リスクと災害リスクマネジメントの研究成果を国際シンポジウムなどで発表し、論文も、レフェリー付国際雑誌に提出する予定。		0.05	環境リスクと災害リスクマネジメントの共同研究に関する成果を国際ミーティングで発表した(南京、中国)。他の研究の成果をレフェリー付国際雑誌に出版した(J. of Coastal Research (68,136-143,2014) and Natural Hazards (online, DOI 10.1007/s11069-014-1556-y, 2014)。	
管理運営	0.05	学部教授会、学科会議に出て、学部で行う事業に力を入れ、管理運営に努める。		0.05	定期的に学部教授会や学科会議に出て、学部で、センター試験や入学試験などの事業に力を入れ、管理運営に努めることを行った。	
進路指導	0.05	国際的な研究、あるいは海外で就職の希望ある学生、院生にいろんなアドバイスをを行う。また、研究室の専攻生のみならずその他相談に訪れた学生に対し、より具体的な就職や進学に対するアドバイスをを行う。		0.04	国際的な研究、海外で就職の希望のある学生、院生にいろんなアドバイスをを行うのを継続した。また、研究室の専攻生のみならずその他相談に訪れた学生に対し、より具体的な就職や進学に対するアドバイスをを行った。それで、就職希望の学生は希望就職先への内定ももらうことが出来た。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		鬼頭 誠	所 属		農学部
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目(前期: 土壌肥料学実験、外国文献講読、卒業論文Ⅰ、後期: 食料生産と環境、熱帯肥培管理論、環境化学実験、卒業論文Ⅱ)を担当し、学部・学科の理念に基づいた講義を行う。大学院担当科目(植物生理生態学特論、特別演習、特別研究)についても研究科・専攻の理念に基づいた講義を行う。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当する。		0.25	目標に記載した学部担当科目を学部・学科の理念に基づいた講義を行った。大学院担当科目についても目標に記載した科目について研究科・専攻の理念に基づいた講義を行った。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当した。ただし、本年度は特別演習、特別研究は履修生がいなかったため行っていない。
研究	0.30	学部学生と共に研究成果の学会発表と研究論文の採択を目指す。新規採択された科研費をの課題を確実に達成するとともに、別課題の外部資金獲得に努力する。さらに、学内外の関連研究機関等との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。		0.30	外部資金として科研費の獲得し、学内外の関連研究機関等との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努めた。他機関の研究者と共に研究を行い、関連学会において1題の発表と全国誌に1編の論文を掲載した。また、中央農研センターと共同研究を行い実社会に応用できる技術の研究開発に努めた。
社会貢献	0.25	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努める。学内外の関連研究機関等との共同研究の成果を応用し、沖縄および熱帯・亜熱帯地域の社会貢献を行う。また、県内外の高校等への出前講座を実施に向け高校関係者との意見交換等の準備を行う。		0.25	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努めた他、農研機構の沖縄を対照にしたプロジェクトの外部評価委員としてプロジェクトの遂行に対する助言を行うとともに成果に対する評価を行った。また、一般公開授業を開講し、2名の受講生を受け入れた。さらに、教員講習授業を担当し、石垣中学校において6名の受講生に講義を行った。
管理運営	0.10	全学の研究・国際貢献に関する自己点検・評価委員会などの委員会委員、研究戦略会議委員として学部との連携を図りつつ中期計画の達成に協力する。また、学部各委員会委員として学部運営に協力する。		0.15	全学の研究推進機構ノ運営に関する研究戦略会議、研究倫理に関するWG及び学長リーダーシッププロジェクト研究にかかるWG、さらにIR委員会委員として大学の運営に努めた。また、学部に各種委員として学部運営に協力した。
進路指導	0.05	学生の希望進路に沿った助言を行うとともに、学会等の出張時などに進路指導上の情報収集に努める。		0.05	学生の希望進路に沿った助言を行うとともに、学会等の出張時に進路指導上の情報、特に国内での技術系職、海外での支援活動に関する情報の収集に努めた。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)									
名 前		建 本 秀 樹		所 属	農学部・亜熱帯農林環境科学科		職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.35	前年度に実施した対話型講義スタイルにより学生の理解力の向上が図られたと、期末試験や事業評価アンケート等の結果等から推察された。したがって、今年度は対話型講義スタイルに加え学生の学習に対する向上心を刺激するよう心掛ける。また、研究室でのゼミでは、学生の研究に対する探究心、ならびに科学英語論文の読解力を鍛え、卒論研究時に生かせるような実践的な教育を実施する。			0.35	対話型講義スタイルの中で、学生に対して復習の問いかけを積極的に実施した。その結果、当初は学生も遠慮がちであったが、次第に学生の方から積極的に返答がなされるようになり、理解力の向上に繋がったと推察される。また、ゼミでも英語力を身につけるための指導を重視した結果、実業高校出身の研究室学生が大学院試験の英語で高得点を取り合格できた。さらに、FD委員会による公開授業も聴講し、自分の講義にプラスになる手法を得る努力をした。			
研究	0.40	国際学術雑誌への2報以上の研究論文の採択と共に、関連学会での1演題以上の学術発表を目指す。また、平成24年度からの科研費(琉球在来豚アグー精子における精漿成分による耐凍能低下の生理学的解明)に関する研究を継続して遂行する。さらに、関連機関との共同研究を継続し、地域に貢献できる研究成果の達成に努める。			0.35	外国雑誌に1報、国内雑誌に1報(筆頭著者)の計2報の学術論文が掲載された。また、平成24年度からの科研費を継続し、沖縄在来豚アグー精子の凍結保存に関する研究を介して良好な結果が得られた。この結果は、来年度中には学術論文や学会発表で公表する予定である。			
社会 貢献	0.10	沖縄県が主催している「沖縄県アグーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し、今後の沖縄県養豚産業の活性化を図る。また、関連企業や県内高校からの問い合わせ等に積極的に応じ、要望があれば出前講座等を実施したい。さらに、「アグー保存会」との連携をさらに深め、純系アグーの保存の為に学術的ならびに技術的な両面から貢献する。			0.10	沖縄県の「おきなわアグーブランド豚推進協議会」に学術委員として参加した。また、沖縄県立北部農林高等学校が中心となっている「アグー保存会」との事業展開の一環として、純系アグーの維持・管理の指導、ならびにブランド豚チャーグーの生産に研究協力を行った。そして、突然の病気により衰弱し繁殖能力が低下した純系アグーの精子から、これまでの研究で得られた技術を用いて、その産子を得ることに成功した。すなわち、数少ない純系アグーの一つの系統の遺伝資源を守ることに貢献できた。			
管理 運営	0.10	昨年度から引き続いての代議員と危機管理委員、さらにはエコアクション21ユニット実施責任者等の各種委員会活動に積極的に参加すると共に、学科会議や教授会等の会議への出席率を80%以上にする。そして、学科や学部の運営に貢献する。			0.10	今年度は、学科会議、学部教授会および研究科委員会に全て出席し、担当した各種委員会では積極的に発言を行った。また、代議員として学部代議会に出席し、さらには、コース長としてコースの取りまとめ等を行い十分に責務を果たせたと思う。			
進路 指導	0.05	今年度は、分野長としても動物機能学コースに配属された3年次の教育と進路の指導を積極的に行うと共に、研究室に配属されている4年次に対しては大学院への進学指導を行い大学院への進学率向上にも貢献したい。さらに、4年次生のチューターとして他の3名のチューターと協力して、4年次学生のご生活・進路指導を積極的に行う。			0.10	4年次指導教員として、所属する分野内で他の研究室を含めた4年次生の進路相談等を受ける機会が多かった。そして、単位の取得や進路指導等を行った結果、病気やケガ等で休学した学生を除き、留年生を出さずに済んだ。すなわち、学生からの問い合わせに対して、的確な進路指導が行えたと思われる。また、当研究室の4年生は大学院へ進学し、自己啓発をしながら成長しようとする学生を育てることが出来た。			
	0.00				0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金野俊洋	所 属		農学部	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.50	動物の生命活動を理解する基礎となる生体機構について、マクロ解剖学から分子生物学に至る幅広い知識を伝えるとともに、時代に即した解剖学実習のための環境整備を行う。		0.50	動物の生体機構について学生の理解を深めることができるよう講義内容の改善に取り組んだ。また、解剖学実習に必要な環境整備に取り組み、より安全な手法による組織学実習ができるよう設備を更新した。			
研究	0.30	哺乳類の胚着床を制御する機序の解明に取り組むとともに、外部資金の獲得に向けた研究室の環境・体制整備を行う。		0.30	少額ではあるが外部資金を獲得し、科研費申請を含めた今後の展開の基礎となる研究に取り組んだ。			
社会貢献	0.10	県内の他研究機関との連携に向けて広く交流を行い、沖縄県における研究ニーズを探索する。		0.10	医学部と連携して地域社会の健康増進に貢献するための研究基盤形成に取り組んだ。			
管理運営	0.05	教育委員、極低温センター委員、遺伝子組換え生物等使用実験安全主任者として大学の管理運営に尽力する。		0.05	教育委員、極低温センター委員、遺伝子組換え生物等使用実験安全主任者、動物実験委員としての責務を遂行した。			
進路指導	0.05	2年次生の年次指導教員としてコース配属など、学生の素養を伸ばすための指導を行う。		0.05	2年次指導教員として、コース配属など学生の進路・生活指導を行った。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		